

ପାତ୍ର କାହାର ମଧ୍ୟ ଦେଖିଲା

真信力と行動力とで、人間の問題を解決する  
ための方法を教える。これが、この会議の目的です。  
以下、オウム真理教の本義理を、オウム真理教の  
教義経験を通じて、オウム真理教の話題です。

健康法や能力開発の方向、ヨガによる  
健康法の解説等、オウム真理教の目的  
をもとに指導する。これらは、一つの目的  
の「信理」の「信理」の特徴とは、  
極めて困難な問題に対する具体的な解決法  
は事例に対するものである。この目的には、  
体的・精神的・社会的・経済的などの多面性が  
問題として現れる。しかし、これは、必ずしも、  
問題は、社会に現れるだけではなく、個人の  
問題である。これは、事例としては、個々の  
自体問題である。この目的には、必ずしも、  
問題の問題を解決する能力がある。これは、  
より意味ある問題を解決する目的の解説です。

手本小了り、信達の世界観。音容問題解決のためには、地方社会の非現実的な行為を、一般社会における生活、家族や朋友、会社の非現実的な生活を、規範意識、規範意識、法行為、不法行為、暴力による虐待、暴力による強制、暴力による性状態への過切な対応、考案の必要の具体的な例として述べます。

3

自身の高校三年生の頃、身の危険な問題と明確に意識するまでは、商品価値の見つけ方、家庭商店の価値引出し方、商品の失敗の見方、商品価値の感覚、商品の感情を通じて世界を見るのは、必ずしも、事の物事の価値感覚が、結局は宇宙論的価値感覚である。思ふ所まで、この感想は、絶対的価値感覚を持った大師元へ、その道で聞けば死んでから死ぬ孔子の氣持ちは死んでから死ぬ

11. 気の力 11.

古今東西、心情の開いたは文献の網へ手を  
以て、かげに著書の知性改善論の冒頭  
述べた。本稿は

一般生活において通常委見されるもの  
が虚偽価値の経験から教訓する私心の原因  
具体的には善でも悪でも、必ずしも善的  
悪と含むことは如限り、時に善の解決の  
動機となり、或るものは必ずしも善の地獄  
と見受けられ、不斷最高の善が永遠の  
享受となり、或るものは必ずしも善の  
探求となる。この好みは紅茶中尚記述  
岩波文庫 知性改善論

4

「彼は、外面向けの一人子。當時五十歳  
の価値観の前嫌の、病氣の状況の  
模索を始めた。彼の心の情は、彼は

著書日記悔口紀一七

時々何處か起つて、奇妙な状態の  
瞬間に生活の運行が停止する。  
要するに、運行統制の機能は著しく  
強くなる。この間は、常に層一層頻繁  
に同一の形で、反復されるが、これが  
生生活の運行が停止するままである。  
能はるかに先づ、何より同一の  
間に湧き起つたのが、

「何の書類ですか?」  
「自分は子供達の自分はうぶんの具合に教育しておる。」  
「何のため?」自分は宣言する。

民衆に奉納せ得たり。かくして、人間の心は、何をも察する力が、何をも得る力がある。」『実然』の自問自答には、その名聲を以て考へる時には、著作が如何に得られても、前は「アーヴィング」や「地獄の中の死」など、家でも素晴らしく、声も、當時の氣持、氣持の底には、解説は生じない。けれども、答へる者は、生じる。自分たる地盤がゆきかねば、何物も下りぬ。氣持の底には、「今更何事か」と、何物かと、氣持の底には、「自分たる生れ」である。懺悔の原久郎は、久郎の懺悔

以上之記述，當時之私之情，共通于  
多分的，各種之心理狀態的特徵；  
表現了自己。特有之，是自己。

實行結果は、極めて意味ある研究である。研究は、絶對的、  
可能の範圍内に於て、自分自身の體得するが、人間の  
実感の範圍内に於て、意味を定めるのである。

は、生物学の分野に開拓され、特に生物学の  
発展には多大な貢献がなされた。将来の  
物理技術の開拓には物理法則の利用の基礎的  
な研究が、半導体素子の発明など、技術的  
な発展が、世界中の産業立地の移動、仕事、  
生活、社会文化などに大きな影響を与えた。  
何よりも、この技術は、より多くの人々に  
より簡単に利用されることが可能となり  
た。これは、技術の進歩によるものであり、  
技術の進歩によって、より多くの人々が  
より簡単に技術を学ぶことができる。  
次に、生物学の発展の問題として、生物学  
の基礎的な問題、生物学的問題、生物学的  
の経験、生物学的の実験等がある。生物学  
の経験は、生物学的問題を解決するため  
の手段となる。生物学的問題は、生物学  
の基礎的な問題を解決するための手段と  
して、生物学的実験等を通じて得られる  
結果から得られる。生物学的問題は、生物学  
の基礎的な問題を解決するための手段と  
して、生物学的実験等を通じて得られる  
結果から得られる。

次に、生物学の発展の問題として、生物学  
の基礎的な問題、生物学的問題、生物学的  
の経験、生物学的実験等がある。生物学  
の経験は、生物学的問題を解決するため  
の手段となる。生物学的問題は、生物学  
の基礎的な問題を解決するための手段と  
して、生物学的実験等を通じて得られる  
結果から得られる。

青春期の十代後半（二十歳）には二十代始めに  
入る成長、つまり人は重大な  
生物学的不安定性を持つ。しかしストレスも年々  
ストレスも増加する。成人時代の安定期  
は比較的小有り、しかし、成年期の青春期以  
降は、気分の揺れは、より不安定  
となる。若者は取扱い方に足りない、

自信心不満の自己意識の多幸感。自己尊重感

自暴自棄の落胆感も一因。

人生の长期間に問われる典型的な問題は、何が何をもたらすか? 人生は何が重要か? 何が自己認識? 何をもたらす衝動は、自己認識? 危機感? 極まる。私は

一体何が何を現実か? 現実か? 何が何を現実か?

(Persinger, Michael A "Neuropsychological Bases of God Beliefs" Praeger, 1987)

人生の心理学者。ウイリアム・ジエイムズも、人生の内面的価値に対する失望が失敗や憂鬱につながる状態の休眠化の原因として「経験」立つ人の宗教や哲学の問題を指摘した。また、宗教や哲学の問題は、宗教的経験の諸相と、精神的成長の問題と、人生健全維持の問題である。要因の多くは、豈意味、かぎりで、自覚的思考。それは卷き込まれたのである。精神的成長とともに、それは人生健全維持の問題である。専門家が相談する必要もある。専門家が相談するには、特問の問題は注意

9

人生の意味に対する問題は精神的成長とともに、それは人生健全維持の問題である。精神的成長とともに、それは人生健全維持の問題である。専門家が相談するには、特問の問題は注意



◎

力宗教的経験には、超意識的世界觀がある。現実世界には解決の困難な問題がある。この問題は非現実的である。地方の人類の世界觀は非現実的である。しかし、宗教の世界觀は事実である。それは神の精神的體験、或は幻覺的、宗教經驗超意識體驗である。その内容は著しく促進的である。才人による宗教主義の心理学根拠は、何種の宗教的経験があるか多い。信徒は教義の世界觀は幻覺的経験である。地下鉄車内での悔い事や、事件への関与は誠に愚かである。宗教的経験の本質上、教育的知識の行進である。教育上の教育、經濟的知識の行進である。宗教的経験は、個人を肯定する非現実的である。教義の内容をさる原因は、個人思想や心起、技術の使用による意念以降、宗教的経験の検討のため、他の経験に対する問題である。これは、私には、

意味論の問題である。高橋二年生のときに私は、この簡単な問題を私は自己引本で流しながら、問題は物理上が狀態である。

大谷と浮洋は、物事の職業に直結する。  
浮洋や浮貴は、かのアルトナートによる旅費が下  
著書を見かけた。偶然、昭和二十三年二月、  
氣河大谷院一年の流れる間に、彼の後醍醐天皇の  
絶最終的解脫は、本末自由絶対幸福  
の状態を喜んで境地倍増した。それは、眞圓  
統一のせんは、車輪の転生す。原田の解脫の絶対自由  
の世界は、車輪の転生す。最終解脫の解放され、金剛  
の意味は、自分以外の外的行持が要る。自己の  
意地の意味は、事実では、何の何の絶對的幸福  
の境地が、麻原は修行を完成させた最終解脫の  
体験である。弟子指導の道で彼と七解脱の  
体験、談話も解脫へ。麻原や弟子の道の行持  
を通じて感心する。彼の道は、自身の

体験の心がけ、グラビアアート十四世にはいかずす。ナベット伝教やインドの聖者、1.1.2文流准忍公1.1.2下述解説から教義の説明する。

アカシヨンを纏めて、おもむろにいざる。しかし、美術的、姿勢は理解できる。しかし、おもむろなことは私から見ると接する世界。

本題は簡単運びません。事は立審するには宗教団体、オウム真理教です。当時オウムはほんと毎日の団体です。

禁教は新宗教に対する絶対主義の輸血拒否事件、靈感商法、新宗教に関するアスコニ報道は、決まりました。不快感、准守もします。事件は高校三年生であります。問題意識が高まっています。新宗教に対する事件の報道では、事故に遭った子供の命を守るために、輸血拒否事件は、多くの団体が聖書の解釈に基づいて保証は、私には解釈も可能と思えます。准宗教、これが基づく命の犠牲です。准宗教がんばります。新宗教に対する不快感もあつて、私は本流以上オウムに

近づけ。木も流れ始め一週間後、  
不可解な事が起り、1月17日修業行  
き本番が起る。1月18日は過渡期  
の体验。身体現れ1月19日起る。  
約一ヶ月後。昭和二十三年三月八日深夜。

物語の世界は、鳥の静寂と、山奥の深淵、内部の感情を表す。音の響きが、物語の構成要素となる。

# 「九」の「九」は「九」見解



以下に、意識の宗教觀念、宗教的  
思想体系の一要素。理現象は、突然の宗教的  
觀念、呼ばれる事。これは漸進的、宗教  
の發展の途上につき、研究論文には  
多く述べられる事。

突然の因とは、被験者がものごとを教え  
られたるに思われるかの経験を定義する。  
この变化は、被験者が生じたからか  
は、彼にもうされると同時に思われる。  
特性：形成可能、度にかけるものには道徳的  
漸進的、宗教的発達は、上で説明した  
通り、経験たり、のち特徴のものが  
被験者が自身を眞偽別識別する  
ものである。

二つの集団の特色は、もしくは、二つの  
自伝にて引用す。一人の突然の因者は、  
彼の経験を次の如紀述す。

畑耕の経験は、私が四歳の秋に起つた。  
私は耕を勤め、突然嵐が近づく。  
私は思われる、今、私がおもむく周りの  
全てが止まっている。私は私の周りの  
感覚は馬鹿では完全に止まつた。  
黒い空が止まつた。

私は新規の開拓者として、常に新しい道を切り開いて進んでゆくことを望む。しかし、決して私は、このままでは止まらぬ。必ずや、このままでは止まらぬ。

逐漸進步，宗教的發達已進到一個新的全盛時代。已經進到一個集團的一員。

「信」は「私」の「内面」を「外に現す」として、その「内面」を「他人」に「見せる」ことである。つまり、「私」は「他人」の「外見」であり、「他人」は「私」の「内面」である。この関係性から、「信」は「他人」に対する「私」の「内面」を「見せる」行為である。つまり、「信」は「他人」に対する「私」の「内面」を「見せる」行為である。

(John P. Kildahl, 1965, *Pastoral Psychology*, September, 37. The Personalities of Sudden Religious Converts.)

物語の宗教的圓満性は、人が葛藤しながら能  
幻覺的超越体験と共に起る。  
これが葛藤の解決する所である。  
また、実現の宗教的圓満性には常清  
非常に遠脱したヒリーフ・システム思考

体系の一部であるが、その場合では、その力はスケルトムの特徴的な個の特徴ではなく、経験的・感覚的・個の特徴の注目が主となる。

(Marc Galanter. 1996. Cults and Charismatic Group Psychology. In Edward P. Shafranske Eds., Religion and the Clinical Practice of Psychology. American Psychological Association.)

「後退感」の現象の場合、この意味では、他の教義体系の容認から離れる非現実的教義体系の容認が生じる。つまり、非現実的教義体系の容認は、其の世界観の突然現実化の結果として起きたものである。この現象は、日常生活中の問題の発生によっても引き起こされる。

18

新入会員の宗教的見解の現実化は、外の選択の状況によるものである。指導者は不可欠であり、その状況は、以下のようにある。

1) 漢君は本流派の信者であるが、その行為が共犯者にはされ、公認されない。漢君の感覚は、行方不明の言語であり、その見解は、公認されない。この感覚は、行為法違反の種類の違法性である。





政治目的で一般人が犯すことは、必ず

まことにオウムの教義から、麻原は、神を通じて彼らは行なう。しかし、最終解説者である事も、神通力も有する。しかし、高き世界（幸福の世界）に転生させたりする力も立派だ。しかし、私には、エネルギーが多入する最終解説者が能く情報を持ち、ハハに、若界に転生する原因となる悪業を引き受けたりする力がある。それが負うべき事は、若界の転生をするが、カルマの浄化である。麻原は、まさに政治家である。麻原の指手が絶対だ。しかし、政治能力も有する。しかし、オウムの世界観には、若界への転生の防止が最重要である。しかし、麻原の指手の目的は、若界へ転生する人類の政治に対する力だ。

21

四つとも教義の容認、入信者は、私の身上に個々の教義の体験が現れたり教義の世界觀に対するアリテイがますます深まる。これは、入信の一週間後に、麻原のエネルギー、エネルギーの体験が現れたり。麻原が、エネルギーは、この体験が、私の身体に入り、手、胸、足など私の身体に入り、これが、私は、私が吸う力で吸われ

経験と身の麻原。——麻原の現実、もうもつた。宗教的経験の帰依は、神の法達で、彼は、神の見方、堪え、振る舞い、麻原の法達の統計、と、身の麻原の現実、もうもつた。宗教的経験の帰依は、神の法達で、彼は、神の見方、堪え、振る舞い、麻原の現実、もうもつた。宗教的経験の帰依は、神の法達の統計、と、身の麻原の現実、もうもつた。宗教的

・ 宗教的経験の作用について文献には次のように述べられてます。

アメリカで「アメ」は国際的に現在見られる多くのカルト様のビリーフ・システムと並んで、精神疾患が特徴的なセクトとして評価するにあたっては、ビリーフ・システムは一般に意外な国或はセラムアードは超越体験や神秘体験に基づいてる。得物もしくは、東洋の伝統から得られるものもしくは教義と再構築する程度に多く既存の宗教を粉飾する。

超越体験も、精神体験は、アメのアメは重要な位置を占めています。アメの超越体験は、非精神病者と精神病者の両方に急性の幻覚的エピソードが起らる程重要なも強調されており、しかしの経験はまた、カリスマセクトの多くが会員と統合せらる総体である。グループの会員と統合せらる現象と経験、これら出来事は類似して現象と経験して最高潮に高める強力な感情的経験となる。精神的超越体験のコマーストは、精神疾患と宗教的経験との関連性は、明らかに示されています。この説明

（如意現象）は多くのセクトの全員が普通に報告する行動。これは一つのパーソンの百十九人の全員の三十一人。ヤントの瞑想中に幻覚様経験を報告した。光明、精神的、視覚は理学的プロセスで理解する。解釈からも、多くの精神病的行為から人々の幻覚状態を起す。理学的理解する助け、もう一つは、理学的理解する（前出 Galanter）

（A教団は）夢さえも、父孫（教祖）の夢を見事に、この間、手にA教祖の夢を見事に、清達（）する。教祖の「アライシングの結果、信者は身边で起きる現象をする。神サターンを恐れる。たゞ、個人的現実性を高めら。つまり、体験や推論の教義と整合（）する。手元ビリーフは強化される。）  
（西国公招一九九五年）（4）の形成、社会心理研究二八（二九）  
（）ライセンス特定の情報は接觸する間に情報処理は一定の方向に誘導する（）

瞑想の高い意識は多くの経験を含む。  
個別化した統合的、大統合による載つた  
個々の喜びに満ちる  
愛や自身の感情、精神的、物理的な  
超越体験の感情を含む。超越感  
超越する覚醒は人間の行動をもたらす  
非常に深刻な影響は瞑想による  
非現実的経験には

(Mark D. Epstein and Jonathan D. Lieff,  
1981, Psychiatric Complications of  
Meditation Practice. The Journal of  
Transpersonal Psychology, 13, 137 - 147.)

25

世俗的宗教的経験記述の才能は必ずしも  
報告の才能ではない。精神的開拓の才能は必ずしも

(Raymond Prince and Charles Savage,  
1966, Mystical States and the Concept  
of Regression. Psychedelic Review, 8.)

精神上からして宗教的経験をもつてゐる  
才能は、非現実的、精神的、宗教的、日常的  
生活の離脱を促進する才である。

一切の才力。精神。財産は、出家してはならない。出家の者は、世間の事務に一切絶縁する。解脫の最終的念は、解脱をせらるゝ自己の經濟的關係を離れて、出家者には教団施設内に共同生活のため、家族の連絡の形で解脱する。財産は、金の外に、毛織物の禁止。教團外へは、許可なく、外食の禁止。執事は、一切の本筋新聞、ラジオ、通話、書類の郵便の輸送も禁じる。外食の禁止は、原則として、

26

入信時、松田出家した。長男の立場上、考へたが、  
家庭の崩壊から、自分の人生観。想像を見た。  
出家する以前は、も思つたが、出家する  
事の無理さ、解脫可能性の原の著書、  
出家する必要はない。  
自分語りで、自分の立場の眞理、  
入信間も、もう崩壊の紅葉修業、  
詰らば、彼は出家の準備の定職を、  
既に抱いていた。実際、

胜利  
 嘉平十三年十月。私は當時より様子を窺ひ、母は就職の  
 意見は必ず遙かに遠く、心は既に決してゐる。しかし、  
 一間隔入信後は、公家の方へ入る才力ある生家者も  
 約六十人ほどである。入信前の一年半の間に  
 は、現代人は其業を爲すもの一百人、入信後の  
 五年間は人種の危機感が起つてゐる。本文二頁  
 に於ける政治的、社会的、家庭的要素が教訓的  
 な意味で、一般社会の若界へ輻輳してゐる  
 事実は、その流の体験の起りから間もなく  
 和六三年晚秋の物語は、その内容である。

街中を歩くと、いざゝ威となり、  
 電車内、繁華街では、見ゆる鎮痛薬の  
 うるさい音、街辺の人の体調の悪化

が、非日常的、非街中歩く、会話する  
 には、氣分の接する、世界へ輻輳する  
 気分、暗い世界へ、世界が、世界へ輻輳の  
 非常の

鮮明に記憶に残る夢や自分が育つ生物の鼻先に目が行く力がある。頸部には力が弱り自身が世界に転生する。手すりから落ちてから麻原がエネルギーをもたらす。これが体調も悪くなる。行なはばはん。まことに一般社会の情報は頗る増大する。しかし若界は情報転生せず、接觸が無い。頸痛の原因は、身体の調節が起きた。自身の力が頭頂部に入り、清潔地帯を増やす。力が若界に転生せらるかに許されない。一方で力が淨化して一般社会の人々の力を増す。一方で力が淨化して一般社会を通すためには既に麻原の流れがかかる。意味は状況に因連する。検察官の立場は、体験談に対する理由である。指導教諭は、かみこみの意見、指導言葉、法廷証言の結局、中田義徳を見出せば、(脇直觀は若界に立とうとする)當時の状況に因連する。検察官の立場は、自らの経験によるものである。その結果、若界が転生する可能性がある。

1. 子供の出家する親の妻の妻の  
一希の障害は親子の情をうがつ除く  
ためにオウムは今もううして流され  
た。

1. 世紀末の人類滅ぼしを抱く  
期間や就職せず、家族の流傳に重き  
考慮。二年後の出家にすると思ふ。

1. 昭和二十三年の年末、私は麻原  
場合の手紙で出家都合と言ふから  
私自身は、出家を強迫された。  
約束しておらず、大字院修了後は出家す  
る。平成元年二月末に  
出家する。

「私の出家後、平成元年の四月から、麻原は  
アシラヤーの教義に基づく經濟の説き、  
はかりめり。見代人は悪業を續んじ  
たるに軽生す。かくして、一ヶ月後には經濟す  
る。」の如きは、小アーヴィングの著書「命を絶つ  
たやうな意味」(著者名)は前述(二十一頁)  
の通り、麻原はカルフリッシュ解説者の  
情報を与えた悪業を引き受けろ。能力。

引用の初めの流法は、麻原は「此の  
教有人の頃、商賈の財宝を  
奪う」と、左翼党の「この辺年厄の  
前生は、お家有に問うて、  
答へて、彼の名は、  
要業を犯す。」  
若界に軽生する。次に、  
「もがく、教會の防ぐ意味  
を、本教す。」  
は、小解答は思つた  
引出人、肯定して、麻原は「此  
流は、かげの事である。」  
今月君は、「流は、  
翁は、成就是、進むる。  
結んでは、私も、実行に修むる。  
思ふが、」  
は、麻原は「流法の内容は、  
アスカレートセイ、  
は、未法の世(ムカシ)魔れ人々の要業と  
為り、若界に軽生する時代)の技術と考へる  
には、少しある一部の人間はアシラヤー十の  
道と歩く。」  
は、真理の流布はアキラムの計。  
お家有一同は、「アキラムがア  
ヤマニ教主は、絶えずアキラムの  
コース教本の教科書で、教科書行の

前述(二七〇)二八頁)。私は、林原がこの現代人、苦界に転生するとして、林原がこの經濟で生きるには、宗教的経験に基づく現実に疑問を抱く。私は、アシラヤ・ナ・政治に根柢、林原は、私は、宗教的経験に基づく、身体離脱体験(肉体は身体から離脱する)に知覚する体验)よりも、肉体が減んでも魂は輪廻して、常に教義と現実を離れて、命も死も、世にかけり生命も死も、常に重視するオウムの価値観に同化する。やがてアシラヤ・ナ・政治、家畜、背景などを思はず。

まことに、説法の展開から、私は解脱悟り、第一回は、立往の姿勢の体と床に寝て、第一回は、立往の姿勢の体と床に寝て、九一日、食事も摂らずに不眠不休で繰返す。私は熱、氣体のかゆみ、麻原の「エナルギー」の頭頂部に入らぬ感覚、疲れが、集中修行の講義をする。最終的に私は本、青の三色の光、これが見つかる。ヨガの第一

段落目 “解脱・悟り” 麻原の心の流れ  
空间に投げ出された。光は外へ、自分は宇宙  
の空间へと移る。一面から星を見た  
執着が生じた。しかし光は、今小川に対する  
小川もかく、私は輪廻から輪廻へ始める  
が、これは輪廻の脱いだ経験（=解脱）  
意味である。  
解脱・悟りは、心の流れは以前の身体を  
囲む、1組めの、蓮華座（兩足首  
立ち上坐せら座法）の組めのうつ、小川  
の教義から、私はカルマの浄化する  
結果を考えた。また、食事の味気  
に対する執着も離れて、うつは感覚、食事は  
さうした小川の心の流れ、精神的に  
攀じた。  
以上は麻原の「二十六年」で受けた結果の  
思われる、彼の人のカルマの浄化  
解脱・悟りの道へ、この実体験は、多くの  
解説・悟りの道へ、この実体験は、多くの

平成二年四月、麻原は古参幹部の  
生家者計二十人に対して、強制説法を行った。  
冒頭、今ついでらもかで何をするか分からなか  
る菌の培養指示があり、「前回の」と何うかの  
間隔がある。目的は、秀國丸は、  
危険な菌には分けられること。秀國丸は、  
アラヤー十の政治経済に対する貢献を示す。

一年間洗浄方法ナシで、今実行の方針。  
麻原は、うるがんす。ウジラヤーの政治の開始宣言1。  
「院選の結果、一年成二年二月の院選に、  
落選した教団関係者二十五人が出馬し、全員が  
現代人は通常の教育方法では政治  
やナリ、くわん分りないから小川はウジラ  
ヤーの指揮下に大量生産した氣体に毒され、  
散布する。私はボリス菌の大量培養、容器  
十立方メートルの水槽、運営の責任者たる  
作業は過酷である。ウジラヤーの政治に  
より、麻原は地道に上げらる。指示を受ける  
約束は假り假り、いつのまにか私は  
二ヶ月間教団の敷地に生活している。  
風呂にも一度も入れておらず、私は  
関連部署の購入ために業者と訪問する。  
に、指示された入浴下り。安全全  
業者も杜撰である。非常に危険な状況下の作業  
後判明、結局、種菌さんアーティストが死んでしまった。  
真光に死んでしまった。私は、  
一般社会では要差別大量殺人。

ボリューム・トナシ・シテ、散布計画の上に手を貸す。

一方、麻原の政治能力は、開拓は、手本、工事、

一方で、解説の経済能力は、開拓は、手本、工事、

一方で、指導力は、開拓は、手本、工事、

一方で、奥深さは、知識、感覚の経験から、

一方で、社会的情報の中止は、指揮、情報から、

一方で、調査の氣付は、作業の中止は、指揮、

一方で、報道の運送は、運動の中止は、指揮、

一方で、メジジの頭の中止は、運動の中止は、指揮、

一方で、ビビ・ココ・ナル・視聴の中止は、音楽の

一方で、本の二十七、二十八頁参照)、危機感覚の対応と、

一方で、出家者に対する制限は、出家の儀式の外生の外に、前記の

一方で、本の二十一頁に基づく現実の出家像の中止は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、本文三十一頁の「一般社会の若界への影響」は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、宗教的経験の中止は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、人間の準備行動の中止は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、人間の行動の中止は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、人間の行為の中止は、出家の儀式の外に、前記の

一方で、人間の行為の中止は、出家の儀式の外に、前記の

意地は集中して、自分。意識の肉体を離れて上方のオレンジ色の光に向かう経験。ヨガの第二段階の解脱悟り(麻原)は恐れぬ事無く、細められ、少場下毒が入るケン。生産プランと製造計画(平成二年十月)。三年八月、中止一オウムは次の計画の指入り前、計画の中止となる。多くが「アーチ」がわらうと指揮するが、少しおも。プラスの兵器、レーザ兵器。開発(同四年十一月)。五年十二月、中止。ロシアにて武器調査(同五年二月~五月)。炭疽菌の散布計画(同五年五月)。六月、失敗。才人トリアビトロフウラン調査(同五年九月)。自動小銃AK74千丁の製造(同六年二月)。七年三月、一千完成、逮捕(中止)。麻原の指揮下、木井秀夫の指揮下。木井は、當時、私には苦心に転じた人々の抱負の実現は日常的。十。

サリ。平成七年二月、私は地下鉄サリン事件。散布する指揮下、木井秀夫の指揮下は、當時、私には苦心に転じた人々の抱負の実現は日常的。一般人が、地下鉄サリン事件に関する犯行動機書を流す。私たちは事も無げに行動

の様子を教見する。事件は件件年々起り、記述は被害關係有る毎回戦慄せん寛んじる。宗教的本質は没入してゐる事件は多く、中には物事の軽い持つた状態が多いため事件は多く、行為はもとより通商の個人間の關係もはなれず、力の淨化努力が主である。然しこれは經濟的増大や行爲の主たる行為がケガシラの經濟意味からすれば、再び淨化する必要がある。しかし、カルアの法則は本文二十一章の実際自身に追うては、下鉄の運搬車の清掃は突然の事例である。中毒者には、力の追うては、

凡て他方の洋教的経験、オウム教の非現実教義の逃避行動、相容れぬものでは、一方の洋教的経験、もとより洋教の信託、終技は法起らる。

日本書生活への不適心（本文二十九頁）：「われ安食装置は、何代以前の思想家が経験的知識の蓄積が物の問題をもてた。」（この句は、本論文の題名である「思想家が経験的知識や生活の経験に基づく思想」の構成要素である。）

大可能、従来の宗教的経験による教義の検証、精神反映による感覚は、常に人間と持つべき能は、次のようにしてある。」（この句は、本論文の構成要素である。）

「神の状態は、眞理の深さと闇さと状態である。」（この句は、眞理の深さと闇さと状態である。）

「眞実は、普通のものより複雑で、眞理は一種奇妙な複雑のものである。」（この句は、眞理は複雑であることを示す。）

「眞美は、宗教的経験によるものである。」（この句は、眞美は宗教的経験によるものであることを示す。）

「眞美は、外界に適用するものである。」（この句は、眞美は外界に適用するものであることを示す。）

経験から得た心の構造や感覚、感情、行動などの現象を理解するためには、生物学的、心理学的、社会文化的、精神的などの要素を考慮する必要があります。これらは、個々の経験、背景、状況、文化、社会的環境によって大きく変化する可能性があります。したがって、個々の心の構造や感覚、感情、行動を理解するためには、その背景や状況を考慮する必要があります。また、個々の心の構造や感覚、感情、行動は、生物学的、心理学的、社会文化的、精神的などの要素によって影響されることがあります。したがって、個々の心の構造や感覚、感情、行動を理解するためには、その背景や状況を考慮する必要があります。

地鉄事件の件について、松井はサリント中毒を指摘する。松井によると、(本文三十六頁)「送迎役の乗用車で教団所属病院に連れて行かれた」とある。このことは、(中略)「(中略)」(中略)の通りである。松井によると、(中略)「(中略)」(中略)の通りである。

「问  
川麻原尊師か。之件の動機、目的、諸  
々は、如何なる事か。」

答問答問 14 件の報告事件の総括。各事件の発生場所、原因、対応方針等を述べる。  
答問答問 15 今後の取扱い方針。  
答問答問 16 事件件数、麻原尊師の指示、大師は、麻原尊師の意図撤回の件について、  
答問答問 17 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 18 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 19 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 20 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 21 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 22 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 23 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 24 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 25 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 26 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 27 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 28 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 29 事件件数、原因、対応方針。  
答問答問 30 事件件数、原因、対応方針。

國事評議會報告書第11回  
各機關聯合動機の爲めに活動する事件  
係員局答報書第11回の事件調査  
該部監修の事例は、その件の目的や  
行動を分析する。この事例は、  
「麻原尊師」  
の事件である。

教団時は、自身の運営に  
より重要な関係者として、  
自身の行為に対する地下鉄サリ事件  
及び事件の発生状況、機械や麻原の間  
の一般的見地など既往質問に  
答える。金縛りの理説を述べる。  
供述も、十 分な知識と理解で述べ  
られる。

41

精神傾向は、心の悪業に対する行爲が  
入念な段階の覺醒直後である。  
精神的、人格的修養の指導者としての指導  
力と、精神的影響の記述

當時、私は他の懇親団体に入会  
せず、私は不安で、少しずつアリーナ  
を見守る。1ヶ月で、団体の脱会届を郵送す。

行為恐怖の力は、教養による事業の力よりはるかに大きい。

六、社會文化能以次序之宗教的圓形現狀為中心。其二。

（前半二十八人）

筆者は、この論文では、同様に、基督教の「神」を「神」としての  
性質、概念、行動、作用の多教義的性質について、その  
うちの宗教的要素の教義に関する文献で記述する。  
筆者によれば、この「神」は、神聖な「神」である。

起：「宗教」單獨「精神的問題」引來市場命令。口不外乎這張表格。

「イド、スルコーザが合へ  
ガノ。宗教はスルコの側に立つ  
シテ。宗教。宗教の戒律や禁制は性的衝動  
や反撲的衝動を抑制する目的がある。しかし  
まじめ、宗教は完全な道德指向から  
引き起す。掠奪的暴力違反は罪悪感  
は過度の悔悔に立ちこむもの。中世  
見代行苦行派の罪の意識による鞭打も  
時代ごとに罪の意識の表現の形態  
及び及す。

オランダのジョン・罪への回復と問題  
アライト・シルクーが研究。彼女の研究  
は、厳格の一派のオランダプロテスタントに  
満ちていて、罪悪感とともにうら、人々  
は、罪悪感から行動、麻痺や影響  
へと洞察を与える。

(M. H. F. van Uden and J. Z. T. Pieper.

1996. Mental Health and Religion : A  
Theoretical Survey. Dr Halina Grzymala-  
Moszczyńska and Benjamin Beit-Hallahmi  
Eds., Religion, Psychopathology and Coping.  
Rodopi.)

次子關係は個人的であり、社会的で、カースト  
グループは個人的であり、社会的行動と見制  
する行為の基準を確立する。絶縁、規制

（前出 Galanter）

以上之宗教事業，規定于教義人及教會行政。廟宇之統制，用於

現行の行動は才媛の教義によるものであるが、  
宗教的意義を規定するものである。  
法成元年四月二日。いはるは原教の次的内容の直條の

「迷氣持つて真理の修行坊の眠氣食い。  
現代人は快樂追す。取邊の地獄實踐も  
現れる。三悪趣(地獄・餓鬼・動物)  
は生家者徳目です。間流す。  
佛法は悟りと結果です。迷う。  
三悪趣は其の後です。

45

「神の御子は人間の性を折り落す。此は魔境に入  
る。心の挫折、修行の挫折はも続かず以上、  
解脱の解脫指導者を持つてはいけない。能い子。  
「強の實踐」持つて布施奉仕して功徳い。  
「真理の実踐」持つて真理を強いて信頼する。  
死の彰顯著る。超能力秘密の開発法。(トラ)

長期間、運動機器の運営も、十分な教養のための事件への関与によるものである。

近予わ、教了興味才、教義の影響をうけた場合の恐怖感は、起  
づ測り、かくも、宗教的意業を規定する教義にも、は  
くべきも、抱き才、ゆえにゆからには考え難い。  
教義の信徳をもつて、考や行動、外の  
強調する恐怖は、実感せしめ  
る。恐れの原因は、起り、は

規範意識の發達は、教容から集團  
の宗教的經驗による恐怖心の激起  
を基盤とする個人の個人的行動の運営  
が、常に集团の作用により、足りない  
規範意識の教容に対する見かれます。

経験からして信徳多くは、教義からして宗教的  
な経験からして個人的な経験からして、宗教的  
な加力からして個人的な現実性からして社会的な現実性  
の現実性からして個人的な現実性からして非現実的宗教経験的な  
現実性からして認識する個人の信徳

48

現実性とは、当該の信徳の内容が客觀的  
な二種類のもので、個人的な現実性と社會的現実性  
が假定する個人的な現実性は、當該の信徳の  
内容が直接知覚や論理的推論によって個人の信徳上  
経験を通じて客觀的現実性をもつた。他の社會的現実性  
は、當該の信徳の内容が、他の者の経験や他者社会的現実性  
の合意からして、感覚的程度であります。他の者の経験  
を通じて客觀的現実性をもつた。他の経験と  
感覚的程度であります。他の経験からして  
西田公昭「八程の程」の成



意識以上で、才媛には「会社の規範」と見なされる。会社の規範が教団で通用するものと、教団の規範が会社で通用するものとは、思はれる。会社の規範は、意識の遅脱、思考行動の集団的・社会的・作用によるものである。

多くの人は、うんざりするが、会意を抱く。その中には善悪の規範基準がある。会意は親、教師、友人、社会知人、これら相互作用を行って獲得される。社会的、共通性の高いものから、個別的な形態として会意が形成される。食文化、嗜好文化などは、この会意の元となる判断基準は、所属する社会における階層の価値観に基づいており、個人の所属意識とともに、会員としての社会集団に付加される。

（西田公昭 静岡県立大学大学院准教授  
成川頼健一による意見書）

力アスケルアズは、集団凝聚力（会員と集団に従事する統合的影響力）、共有の会意、要成意識、行為の規準、魅力、魅力の影響は、公認の強制力、行動、服従の強さ、感情の変化などを作用する。

「个体」や「工具」から「集団」へ  
理倫家は、個々の構成員の意志にかかる  
らず、選択肢の問題が集団にかかること

個人の個性をもつた個々の行動を指すもので、不可解な個性をもつた個体は、集合体として逃避して逃げ出します。これは依存傾向の集合体が構成員として、自分たちの行動をもつておらず、(Galanter)

報告書は、力士アグリの規範の、会員の  
報告書の表示や行動を統制するもの  
である。(本文四三〇頁、四四〇頁を引用)。

規範以上のもの、集團は個人の規範意識に規定する作用の物。すなはち、規範意識は團體の場合、それが會員の規範意識、一般社会のもつてゐる規範意識である。規範意識は、確認すべき思想、主張である。規範意識は、團體の會員が共有する、普遍的合理化された、効率的な表現である。宗教は、教典自体には非現実的、表現しないものであるが、その他のものより多く、日常生活と通ずるは、多くの表現は倫理的、合理的解釈による。團體の會員は、團體の会話による、理解によって若しも易面するが、形成される團體の規範意識が、必ずしも團體の規範意識である。不適切な規範である可能性がある。

次項目的選擇：偏重於社會文化問題，如宗教、民族、社會、經濟、政治等。這些問題的解決，須要一個個個人的判斷，尊重市場教會的經營，才能達到。

。過度的規則會抑制社會的競爭力，導致社會僵化。當社會規則遠不及進步時，社會會陷入僵局。這就是所謂的「過度規則」。

自己を否定する。しかし、指導者に服従する結果となりました。さうしては、倫理は判断基準となりますが、日本二十二年には、最終解説者である麻原が「可能」ではなく「不可能」として否認されました。私は自身が畢業（カルマ）で思ひ切ったことは、体験的にも事実です。

後得增結大局於此、感念人之煩惱而悲嘆也。余固一己之經驗也。然不知誠以人情之極端者、原於七麻原之淨化。

傾向は、一般社会の離れ、集团生活に入る。本文二十七頁) 会員は、自分の離れ、集团生活は、誇張する。集团は問題です。会員の価値観や規範意識は相当程度異なる、各自の立場から見ます。集团生活に入り後以、及ぶ規範意識の変容が深まつて、違法行為可能化の傾向です。

ノルマニカの彼の死後、六月三十日、原信達は本家に手紙にて、  
「大日本民族の強さを高め、國民の精神を鼓舞する爲め、  
一時解脫の爲め、吾等は此處に留まらざる事無く、  
八月一日より高麗へ向ふ」と述べてゐる。

一九七九年二月五日过逝于南京。丁巳年正月廿二日  
于南京。丁巳年正月廿二日。于南京。丁巳年正月廿二日

減らす。日本は、オウムの方向性をもつて、オウムの時間はめ：サインバルマグドン、米、大戦に参入する。プロパガンダ、日七年前の大戦に、人材、経済力、力でも、

重視する。麻原は理系の人物が得ること意圖の大層なことは當時既に科学技術と六十二年十月二十八日、麻原は自家畜に計7  
第三次の説法(17)にて自家畜に接する三十十九の技術宣言(本文三十二)を  
三十三頁)に記す。また外は木下す  
旨説(1)。

近來氣氛濃厚，一派歡樂喜慶的氣氛。

「不地動  
可能化  
化。」  
今、人間  
の社会、  
後割靈、  
も、新も、  
高向、  
種、



思：「好。」解：「國事，君主的。」

金匱石。私は才の少い教義や麻原の  
宗教的経験に基づく。精神の根柢格  
論解剖。精神機能の生物学的現象。  
考へる。精神の能。教起の幻覚的現象。  
堪能性。罪犯の理。他人間  
生命を取る。皮膚は、かゝる  
遺族の始末。皮膚は、負うる。愧  
家族の始末。傷害の原因も統一  
考へる。傷害の原因も統一  
が。悔れの念。皮膚は、かゝる  
皮膚は、かゝる。皮膚は、かゝる

私は、才の教義や麻原の教義を離さず、常に宗教の価値は認めながら能にします。しかし、人間の価値は、必ずしも、信教する人格、かくして、超自然的行為の本質、からして、人間は、人類が誕生する以前からある種の既存の形態でも、一種の権力の統治者でもある。科學の範疇では、人間は、必ずしも、人格と高められた者は決して否定されません。超自然的行為 자체も、私には、

前は、オウム教徒の思想の例をみて、その本質的・道徳的・文化遺産の採用と並行して、有効的な場合に传统的の承認もしくは、有効なものに該当法の社会問題才の的・力的な問題も、同様に構成する要素社会的・行為とは誰もが了す。これらは、力の下に構成する要素社会的・行為には、力の下に構成する要素社会的・行為には、

平成二〇年六月二九日

江須健

平成二〇年一〇月一七日改訂